

いずっぱこの軌跡

明治 26 年 (1893)

豆相鉄道株式会社設立

明治 31 年 (1898)



三島駅 (現御殿場線下土狩駅) ~
南條駅 (現伊豆長岡駅) 開通

明治 32 年 (1899)

南條駅 (現伊豆長岡駅) ~大仁駅開通

明治 33 年 (1900)

北條駅 (現菰山駅) 設置



大正 8 年 (1919)

駅の名称変更①南條駅→伊豆長岡駅
②北條駅→菰山駅



昭和 9 年 (1934)

丹那トンネル開通に伴い、起点を旧
三島駅 (現御殿場線下土狩駅) から現
三島駅に移転、現在の駿豆線となる



昭和 32 年 (1957)

社名を「伊豆箱根鉄道株式会社」に変更

昭和 33 年 (1958)

狩野川台風で甚大な被害を受ける
(11 日後に全線復旧)



昭和 48 年 (1973)

日本初のシルバーシート導入



平成 29 年 (2017)

創立 100 周年記念セミナー開催



平成 30 年 (2018)

鉄道開通から 120 周年



伊豆仁田駅



伊豆長岡駅



三島駅



修善寺駅

地域の足「いずっぱこ」
愛され続けて開業120周年

問合先／企画財政課 (979・8101)

三島市・田方広報研究会共同編集

三島〜修善寺間を結び、私たち地域住民の日常生活に欠かせない「地域の足」として、日々運行する伊豆箱根鉄道駿豆線(通称「いずっぱこ」)。そのいずっぱこが、平成30年(2018)で、前身となる豆相鉄道開業から数えて、120周年を迎えました。

「いずっぱこ」は、県内初の私鉄「豆相鉄道」として、明治31年(1898)に開業しました。開業当時、駅は三島町駅(現三島町駅)、大場駅、原木駅、南條駅(現伊豆長岡駅)の4駅のみ。現在の形となったのは、開業から36年後、昭和9年(1934)のことでした。

120年もの間、地域住民とともにあり続けた「いずっぱこ」。現在も変わらず、通勤・通学を行う地域住民や、沿線沿いの観光地を訪れる観光客など、さまざまな人たちが日々利用する「いずっぱこ」。

今回は120周年を記念し、「いずっぱこ」の変遷に迫りたいと思います。

※田方広報研究会は、伊豆市、伊豆の国市、函南町、JA伊豆の国、伊豆保健医療センターの各広報担当で構成されている広報研究会です。今回の特集は、三島市を含めた伊豆箱根鉄道駿豆線沿線市町による共同編集です。

※古い写真の一部は、伊豆箱根鉄道(株)から提供されたものです。